

大正天皇の後 貞明皇后展

—むげに幼かりしほど 住みける里のことども 思い出でて—

大正天皇の後である貞明皇后くじょうさだこ（九條節子）は、生後7日目から5年間にわたり東京府東多摩郡高円寺村の大河原金蔵・てい夫妻のもとで里子として育てられました。ご成婚の後は、四人の皇子をもうけ、蚕糸事業の奨励、灯台守への支援などの社会事業にも尽力されました。

今回の特別展では、貞明皇后の生涯に大きな影響を与えた杉並との関わりに焦点を当てるとともに、大正天皇病氣平癒のため祈祷が行われた大乘寺から当館に寄贈された貞明皇后ゆかりの品など、関連資料を展示します。

〈大河原家に伝わる品々〉

実家である九條家に戻った後も、九條節子と大河原家との交流は続きます。婚約内定の後は、これまで同様の訪問もかなわなくなるため、里親に宛てて直筆の御歌色紙を贈られました。この御歌色紙をはじめ、第一皇子誕生を知らせる大河原家への電報、崩御後に御形見品として遣わされた胡蝶舞人形などを展示します。

〈貞明皇后の社会事業〉

貞明皇后は、さまざまな社会事業に尽力されました。蚕糸事業の奨励や灯台守支援、関東大震災罹災者への支援を行いました。貞明皇后の発意で全国の灯台に設置されたラジオや関東大震災直後に罹災者を見舞われた貞明皇后を記録した写真などを展示します。

〈貞明皇后の装いとゆかりの品々〉

高松宮家に伝わった貞明皇后ご遺品の蒔絵箆笥や宝石箆笥、個人所蔵の貞明皇后がデザインに関わられたボンボニエール（お祝いの場に添えられる砂糖菓子などを収めた小箱）などを展示します。皇室ゆかりの工芸品の美にふれていただけます。また、大正天皇の病氣平癒のため祈祷が行われた大乘寺に形見分けとして伝わったとされる小桂などの装束や漆器類が、このたび当館に寄贈されました。新出資料として展示します。



▲伝貞明皇后装束

特別展「大正天皇の後 貞明皇后展 —むげに幼かりしほど 住みける里のことども 思い出でて—」

【日時】10月21日（土）～12月10日（日）午前9時～午後5時

（会期中休館日：毎週月曜日、11月16日（木））

【会場】杉並区立郷土博物館（大宮1-20-8）

【観覧料】100円（中学生以下、障害者手帳を提示する方およびその付き添いの方は無料）

【問い合わせ先】

杉並区立郷土博物館【本館】03-3317-0841